

庄川上流の産廃処分場計画、設置不許可 を要望 高山市議会が岐阜県に意見書



産業廃棄物最終処分場建設問題で、岐阜県高山市議会議長（左）から意見書を受け取った大森康宏副知事＝23日、岐阜県庁

岐阜県高山市で計画されている産業廃棄物最終処分場建設を巡り、同市議会は23日、地元や下流域の富山県の関係者の間で、自然環境や水質保全への不安が広がっているなどとし、設置を許可しないよう要望する意見書を県に提出した。

受け取った大森康宏副知事は「住民の皆さんの思いをしっかりと受け止め、法令に基づいた厳正な判断をしていきたい」と話した。

意見書は、事業者に住民の理解を得ようという真摯な姿勢が見られず、住民から憤りの声が出ていると指摘。地下水を含む水源への影響を十分に調査していないとし、「この地での施設設置には断固反対する」と訴えている。

計画地は岐阜・富山両県にまたがる世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の上流部に当たる。富山市の産廃処理業者「アルト」の計画では、廃プラスチックや水銀を使用した製品の産廃などを埋め立てる。

この計画を巡っては、昨年11月に富山県西部5市の農業・漁業団体や自治会組織などが対策協議会を設立している。雨水や廃棄物に含まれている水分など埋め立て地から出る浸出水は、処理施設に集めて基準を満たす水に処理してから庄川支流の六廐川に放出する計画。このため、対策協議会は豪雨災害など万一の際に有害な物質が庄川に流れ出て、下流域に当たる県西部の農水産物や水道水の安全性を損なう可能性があるとして訴えている。